

# 平成 28 年度 全国学力・学習状況調査の

## 逗子市の結果について

### (1) 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる
- 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する

### (2) 調査の対象

- 逗子市立小学校第 6 学年児童 4 4 8 名
- 逗子市立中学校第 3 学年生徒 3 1 3 名



### (3) 調査の内容

#### ①教科に関する調査（国語，算数・数学）

- ・国語A，算数・数学A：主として「知識」に関する問題を中心とした出題
- ・国語B，算数・数学B：主として「活用」に関する問題を中心とした出題

#### ②質問紙調査

- ・児童生徒に対する調査
- ・学校に対する調査

### (4) 調査の方式 悉皆調査

### (5) 調査日時 2016年（平成28年）4月19日（火）

### (6) 調査結果の分析にあたって留意したこと

本調査の結果から見てとれることとして、次のような点に留意して分析を行った。

- ①実施教科が「国語」「算数・数学」の2教科であり、学習指導要領のすべてを網羅するものではないことから、児童生徒が身につけるべき学力の特定一部であること。
- ②年度により問題の質が異なるため、経年変化の状況のみから学力の向上・低下の傾向を容易に評価することは難しいこと。

(6) 調査結果(正答率)

(小学校)

教 科	逗子市正答率	神奈川県正答率	全国正答率
国 語 A	71.4 %	70.3 %	72.9 %
国 語 B	57.7 %	58.2 %	57.8 %
算 数 A	81.0 %	76.6 %	77.6 %
算 数 B	48.3 %	47.3 %	47.2 %

(中学校)

教 科	逗子市正答率	神奈川県正答率	全国正答率
国 語 A	77.5 %	75.4 %	75.6 %
国 語 B	69.7 %	67.0 %	66.5 %
数 学 A	63.1 %	61.9 %	62.2 %
数 学 B	44.4 %	44.3 %	44.1 %

# 平成 28 年度全国学力・学習状況調査の結果の分析（国語）

小学校 国語

調査結果の概要及び教科の課題等（○良かった点や特徴ある点等 ●課題や改善点等）

<p>結果の概要</p>	<p>国語A「主として知識に関する問題」の正答率は71.4%、国語B「主として活用に関する問題」の正答率は57.7%であり、県・全国と比較してほぼ同程度の結果であった。</p> <p>領域別に見ると、国語Aでは「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」で良好な結果であったが、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」では県平均は上回ったものの、全国平均は下回る結果であった。</p> <p>また、国語Bでは、どの領域においても、県・全国の平均をわずかであるが下回る結果であった。</p>
<p>話すこと 聞くこと</p>	<p>○話し合う際の決まり事や必要なことについての知識を問う問題の正答率は県・全国の平均を上回る結果であった。【A2】</p> <p>●目的に応じて質問したいことを整理したり、相手の質問の意図を捉えたり、話の展開にそって質問したりするなど、持っている知識を活用する問題についての正答率は県・全国の平均を下回る結果であった。【B1】</p>
<p>書くこと</p>	<p>○他者の書いたものをもとに表現を工夫する力は県・全国平均を上回る結果であった。【A3】</p> <p>○グラフをもとに事実を的確に書く力や、表をもとに自分の考えを書く力は、県・全国平均を上回る結果であった。【B2】</p> <p>●目的や意図に応じて書く事柄を整理する力は県・全国平均を下回る結果であった。【A4】</p>
<p>読むこと</p>	<p>○登場人物の人物像について、複数の叙述を基に捉える力は、県・全国平均を上回る結果であった。【A6】</p> <p>●目的に応じて、複数の本や文章などを選んで読む力は、県・全国平均を下回る結果であった。【B2】</p>
<p>伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項</p>	<p>○「学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読む」力は、おおむね定着している。【A1】</p> <p>●「学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く」力は、県平均は上回ったものの、全国平均は下回る結果であった。【A1】</p> <p>●ローマ字を正確に読んだり書いたりすることについて、県・全国平均を下回る結果であった。【A8】</p>
<p>児童質問紙 国語に関する質問 問 25～28</p>	<p>「国語の勉強は好きですか」という問いに対して、肯定的な回答は57%であった。一方「国語の授業の内容はよく分かりますか」という問いに対して、肯定的な回答は82%であった。また、「国語の勉強は大切だ」と感じている割合は91%、「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つ」と感じている割合は87%といずれも高い割合であった。授業もよく分かり、必要性も感じているにもかかわらず、5割近くの児童が国語を好きではないと感じていることは気がかりな結果である。5年生での学習の経験が、学習成果として結果に表れていることから、6年間の系統立てた指導が重要であるといえる。</p>

# 平成 28 年度全国学力・学習状況調査の結果を受けての逗子市としての取り組み

逗子市教育委員会

調査の結果を受けて、今後の指導改善に向けて逗子市として取り組むこと

全体として県・全国平均と同程度であり、概ね学習内容が定着しているといえる。

今後は、学習した内容をしっかりと定着させることや、得られた知識を基に自分の考えを深め、まとめるといった思考力・判断力・表現力を伸ばす指導をさらに授業の中で充実させていく必要がある。

領域ごとの改善点については、以下に列举する。

## 【話すこと 聞くこと】

\*身につけた知識をもとに、実際の生活で適切に活用する力を育てる必要がある。そのためには、学習時に学ぶ目的を明確にすることや、話すこと・聞くことの学習の機会を意図的・計画的に設定して指導を行うことが重要である。情報をインプットする力に比べ、聞き取った情報をもとに、アウトプットする際の力に課題が見られるため、インプットからアウトプットという一連の流れを学習活動として計画し、バランスの良い指導の工夫が求められる。

## 【書くこと】

\*基になるデータや意見がある場合に、自分の意見を表現する力が養われている。しかし、何も無いところから必要な情報を集め、整理しながら表現していくことに課題が見られる。このことから、読み手に伝えたいことの内容を明確にし、自分で調べた内容や、関係者に取材した事柄の中から取捨選択し、伝えたいことが読み手に伝わるように整理して書く指導の充実が求められる。

## 【読むこと】

\*内容を叙述に即して読み取る力が養われている。しかし、様々な情報を基にさらに深く読み取ったり、視点を広げていくために、指導の際に、「自分の考えを補説したい」、「説得力を高めたい」などの目的意識を児童にもたせることが重要である。授業では児童が目的意識や必要性を十分にもてる言語活動を位置付けることが大切である。

また、様々な情報に触れる機会を持つことも重要であり、図書館との連携や、新聞の活用など指導の工夫が求められる。

## 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

\*漢字の読み、書きについては、国語の授業だけではなく、学校生活全般で指導していく必要がある。使用する機会が多ければ多いほど、身につけていくものであり、字を書くことの楽しさや、語彙力が付くことの喜びを味わいながら身につけていく工夫が求められる。

# 平成 28 年度全国学力・学習状況調査の結果の分析（国語）

中学校 国語

調査結果の概要及び教科の課題等（○良かった点や特徴ある点等 ●課題や改善点等）

<p>結果の概要</p>	<p>国語A「主として知識に関する問題」の正答率は77.5%、国語B「主として活用に関する問題」の正答率は69.7%であった。国や県と比較すると国語Aでは2%程度、国語Bでは2~3%程度上回る結果であり、学習内容が定着しているといえる。</p> <p>領域別に見ると、「話すこと・聞くこと」ではすべての問題で国・県を上回り良好な結果であった。「書くこと」においては、概ね国・県を上回る結果であった。「読むこと」についてはほぼすべての問題で国・県を上回る良好な結果であった。「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」では漢字を正しく読んだり、書いたりする問題において国・県を下回る結果が多く見られた。</p>
<p>話すこと 聞くこと</p>	<p>○すべての問題で、国・県の平均を上回る結果であったが、「目的に応じて資料を効果的に活用して話す」「相手や場に応じた言葉遣いに気をつけて話す」力は国・県の平均とほぼ同じであった。</p>
<p>書くこと</p>	<p>○「伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く」「課題を決め、それに応じた情報の収集方法を考える」力は県・全国平均を5%以上上回る良好な結果であった。</p> <p>【A2】【B2】</p> <p>●「伝えたい事柄について根拠を明確にして書く」問題について国・県をやや下回る結果であった。【A4】</p>
<p>読むこと</p>	<p>○「登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する」力は、県・全国平均を3%上回る結果であった。【A3】</p> <p>○「目的に応じて必要な情報を読み取る」力は、県・全国平均を5%以上上回る良好な結果であった。【B3】</p> <p>●「文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える」問題について、国・県の平均を下回る結果であった。【A6】</p>
<p>伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項</p>	<p>○「語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う」問題では、ほぼ国・県を上回る結果であった。【A9三】</p> <p>●「学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読む」「学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く」問題の多くが国・県平均を下回る結果であった。【A9一、二】</p>
<p>生徒質問紙 国語に関する質問 問 25~28</p>	<p>「国語の授業内容はよく分かりますか」という問いに対して、肯定的な回答は70%であったことから、概ね授業内容が生徒に伝わっているといえる。</p> <p>しかし、「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思えますか」という問いに対して、当てはまると答えた生徒の割合は26.4%にとどまり大きな課題である。学習活動が目的に合わせたものになっていることや、学習内容が生活に活かされているとの実感を伴ったものになっているかなど、さらに意識した指導が求められる。</p> <p>「読書が好き」と回答した生徒ほど国語A、Bともに、正答率が顕著に高かったことから、まとまった量の文章に触れる機会を意図的に授業の中や生活の中に取り入れたり、読書を日常に取り入れていくなど指導の工夫が必要である。</p>

# 平成 28 年度全国学力・学習状況調査の結果を受けての逗子市としての取り組み

逗子市教育委員会

調査の結果を受けて、今後の指導改善に向けて逗子市として取り組むこと

伝えたいことを適切に話したり、展開に注意して聞いたりする力が養われている。また、相手に効果的に伝わるように書いたり、必要な情報を収集する力が養われている。さらに、登場人物の言動から内容を読み取ったり、文章の展開によって内容を読み取ったり必要な情報を読み取る力が養われている。今後は、これらの強みを伸ばす一方、学んだことをしっかりと身につけるために、授業以外の場での自主的な学習の習慣化を図ることも必要である。

領域ごとの改善点については、以下に列挙する。

## 【話すこと 聞くこと】

\* 言語活動を取り入れた授業づくりを推進するなど、授業改善を重ねていることにより、系統立てた学びの成果が現れていると考えられる。この授業改善を引き続き進めるとともに、今後は、子どもたちが身につけた力をもとに、実際の生活で適切に活用する力を育てる必要がある。そのためには、学習時から学ぶ目的を明確にすることや、目的を持って話すこと・聞くことの学習の機会を意図的・計画的に設定して指導を行うことが重要である。

## 【書くこと】

\* 決められた情報を基に内容を伝える力や、必要な情報を収集する力が定着している。今後は、集めた情報を必要に応じて適切に整理し活用する力を身につけていくことが必要である。

そのためには、例えば個々の既習の知識や自分の経験、他者の意見といった様々な情報を整理して繋げ、根拠を明確にしながらか自分の考えを表現していくことを一連の活動とするような学習を計画的に取り入れ、指導の時間を工夫しながら丁寧に指導していくことが必要である。

## 【読むこと】

\* 生徒の発言や活動の時間を授業の中で確保するなど、授業改善の成果が現れているといえる。引き続き、単元を通した授業の組み立てを工夫するなど、効果的な学習活動が求められる。

文章から情報を読み取る力は付いているが、今後は、得た情報を整理しながら必要な情報を基に考えを広げたり深めたりする活動を単元の中で意図的に設定し、さらに思考力・判断力・表現力をつけていくような指導が必要である。

## 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

\* 漢字の読み、書きについては、国語の授業だけではなく、学校生活全般で指導していく必要がある。使用する機会が多ければ多いほど、身につけていくものであり、字を書くことの楽しさや、語彙力が付くことの喜びを味わいながら身につけていく工夫が求められる。

また、学んだことをしっかりと身につけるために、家庭学習等自主的な学習習慣を身につける指導の工夫が求められる。

# 平成 28 年度全国学力・学習状況調査の結果の分析（算数）

逗子市教育委員会

調査結果の概要及び教科の課題等（○良かった点や特徴ある点等 ●課題や改善点等）

<p>結果の概要</p>	<p>算数A（主として知識）においても、算数B（主として活用）においても、本市の平均正答率は、全国平均、神奈川県平均を上回り、全体的に良好な結果といえる。</p> <p>基礎的・基本的な知識・技能は、大多数の児童にほぼ身につけていると言えるが、それを活用して思考する力（筋道を立てて説明したり、論理的に考えたりする力）には、依然として課題が見られる。</p>
<p>(算数) 数と計算</p>	<p>○基本的な四則計算（整数、小数、分数）や、数の大小関係の理解は、相当数の児童ができています。【A 2、A 3】</p> <p>○除法における計算の確かめの方法を理解することも、相当数の児童ができています。【A 1（3）】</p> <p>●除数が1より小さいとき、商が被除数より大きくなることを理解することに、依然として課題がある。【A 1（1）】</p> <p>●乗法や除法の式の意味を解釈することに課題がある。【B 3（1）】</p>
<p>(算数) 量と測定</p>	<p>○水平な辺を底辺としたときの、三角形の底辺と高さの関係について理解することは、相当数の児童ができています。【A 5】</p> <p>●面積が1 cm<sup>2</sup>小さくなることの説明を解釈し、用いられている考えを別の場面に適用して、その説明を言葉と式を用いて記述することに課題がある。【B 1（2）】</p>
<p>(算数) 図形</p>	<p>○図形の構成要素に着目して、4枚の三角定規でつくられている形を選ぶことは、相当数の児童ができています。【A 6】</p> <p>●示された除法の式を、三角形を並べてできた形と関連付け、角の大きさを基に、式の意味の説明を記述することに課題がある。【B 5（1）】</p> <p>●図形を構成する角の大きさを基に、示された四角形を並べてできる形を判断することに課題がある。【B 5（2）】</p>
<p>(算数) 数量関係</p>	<p>○全体の大きさに対する部分の大きさを表す割合の意味については、相当数の児童が理解している。【A 8】</p> <p>○示された場面を適切に読み取り、全体の人数を求める式に表すことは、相当数の児童ができています。【A 9（1）】</p> <p>●示された式に数値を当てはめて、目標のタイムを求めることに課題がある。【B 2（2）】</p> <p>●示された資料のほかに必要な情報を判断し、特定することに課題がある。【B 4（1）】</p>
<p>児童質問紙 算数に関する質問</p>	<p>○7割以上の児童が算数が好きであり、大切であると考えている。</p> <p>○9割程度の児童が算数で学習したことが将来役に立つと考えている。</p> <p>○算数の授業がよくわかると答えた児童も8割と高い割合である。</p> <p>逗子市の児童は全体として、算数に関する関心が高く、意欲的に学習に取り組んでいると言える。</p>

# 平成 28 年度全国学力・学習状況調査の結果を受けての逗子市としての取り組み

逗子市教育委員会

調査の結果を受けて、今後の指導改善に向けて逗子市として取り組むこと

基礎的・基本的な知識・技能の習得とともに、それらを活用して、自分の考えを説明したり、記述したりする学習に取り組む必要がある。日常の事象と算数の内容を関連付け、学習した用語を用いて自分の考えを的確に表現できるようにする。領域ごとの改善点については、以下に列挙する。

## 【数と計算】

- \*正しい計算の結果を得るために、計算の結果を見積もったり、計算の性質の理解の上に立って、計算の仕方を考えたり、結果を振り返って確かめたりする活動を充実させ、それらを児童自らが関連付けることができるようにすることが大切である。
- \*日常生活の問題の解決において、乗法や除法を用いることができるようにするためには、指導において具体的な場面と関連付けながら乗法や除法の式の意味を解釈したり、その式を用いて問題を解決したりする場面を設けることが大切である。また、実際に日常生活の問題を解決し、用いた式やその答えが表す内容を日常の場面に戻って考察する経験を豊かにすることも大切である。

## 【量と測定】

- \*日常生活の問題の解決においては、単位量当たりの大きさを活用することで、合理的に判断したり、能率的に処理したりする場合がある。収集した情報について単位量当たりの大きさをを用いた新たな視点で解釈する活動などを通して、そのよさを実感できるようにすることが大切である。
- \*問題を解決した後、児童自らが数値や形などの条件を変えて、発展的に考察する活動を設けることが大切である。その際、数値や形などの条件の異同を確認し、見いだした考えをどのように活用していくかを話し合う場を設けることで、基本的な問題で用いた考えを適用して、新たな問題が解決できることを実感できるように指導することが大切である。

## 【図形】

- \*図形の構成に関する指導においては、図形の構成要素に着目して、構成できる図形を予想したり、構成できた根拠を考えたり説明したりすることが大切である。また、図形の性質を理解する際には、学習の系統性を意識するとともに、具体物を用いた活動を取り入れることで、その理解を実感的なものとするのが大切である。
- \*図形と式を関連付けて考察することは、図形の特徴や式の意味についての理解を深めることにつながる大切な活動である。式の意味を図形の構成要素に着目して説明する活動を設け、図形の用語を適切に用いて、説明できるように指導することが大切である。

## 【数量関係】

- \*割合を活用して問題を解決するためには、基準量と比較量、割合の関係を正しく捉える必要がある。その際、問題場面のイメージを数直線などを用いて表現することで、何が基準量にあたるかを意識することが大切である。
- \*問題を解決するために必要な情報は何かを適切に判断し、資料などからその情報を取り出すことができるように指導することが大切である。また、資料から解釈したり、判断したりしたことを伝える際には、考えた筋道や根拠となる事柄を過不足なく示して説明できるように指導することが大切である。



# 平成 28 年度全国学力・学習状況調査の結果の分析（数学）

逗子市教育委員会

調査結果の概要及び教科の課題等（○良かった点や特徴ある点等 ●課題や改善点等）

<p>結果の概要</p>	<p>算数A（主として知識）においても、算数B（主として活用）においても、本市の平均正答率は、全国平均、神奈川県平均に対して±5ポイントの範囲内にあり、平均正答率は若干上回るが、全体的には、ほぼ全国、神奈川県と同程度の結果といえる。</p> <p>基礎的・基本的な知識・技能は、一定数の生徒には、ほぼ身につけていると言えるが、それを活用して思考する力（筋道を立てて説明したり、論理的に考えたりする力）には、依然として課題が見られる。</p>
<p>(数学) 数と式</p>	<p>○正の数と負の数の加法の計算、正式の加法と減法の計算、2つの等号で結ばれている方程式が表す関係を読み取り2つの二元一次方程式で表すことは、相当数の生徒ができています。【A1（3）、A2（2）、A3（4）】</p> <p>●自然数の意味の理解について課題がある。【A1（1）】</p> <p>●数量の関係を文字に表すことに課題がある。【A2（1）】</p> <p>●一元一次方程式の解の意味の理解について課題がある。【A（2）】</p> <p>●与えられた情報から必要な情報を適切に選択し、数量の関係を数学的に表現することに課題がある。【B1（2）】</p>
<p>(数学) 図形</p>	<p>○見取図に表された立方体の角の大きさの関係を読み取ることは、相当数の生徒ができています。【A5（3）】</p> <p>●垂線の作図の方法の理解について課題がある。【A4（1）】</p> <p>●柱体と錐体の体積の関係の理解について課題がある。【A5（4）】</p> <p>●2つの辺の長さが等しいことを、三角形の合同を利用して証明したり、付加された条件の下で、新たな事柄を見だし、証明したりすることに課題がある。【B4（1）（2）】</p>
<p>(数学) 関数</p>	<p>○比例の関係を表す表から変化や対応の特徴を捉え、xの値に対応するyの値を求めることは、相当数の生徒ができています。【A9（1）】</p> <p>●反比例のグラフ上の点の座標から、xとyの関係を式で表すことについては課題がある。【A9（4）】</p> <p>●前提となる条件が不足している場合に、加えるべき条件を判断し、それが適している理由を説明することに課題がある。【B2（2）】</p>
<p>(数学) 資料の活用</p>	<p>○簡単な場合について、確率を求めることは、相当数の生徒ができています。</p> <p>【A13（2）】</p> <p>●資料を整理した表から最頻値を読み取ることに課題がある。【A12（1）】</p> <p>●資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的表現を用いて説明したり、与えられた情報から必要な情報を選択し、数学的に表現したりすることに課題がある。【B5（1）（2）】</p>
<p>生徒質問紙 数学に関する質問 P29～32</p>	<p>●数学の勉強が好きと回答している生徒は5割程度で、大切だと思うと回答している生徒も7割にとどまり、全国、県を下回っている。</p> <p>●授業の内容がわかると回答した生徒は6割弱で、できるようになりたいと思いつつも、解き方がわからないと諦めてしまう生徒が多い傾向にある。</p> <p>●学習したことが将来役に立つと思っている生徒は6割程度で、学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える生徒は4割に満たない。</p>

# 平成 28 年度全国学力・学習状況調査の結果を受けての逗子市としての取り組み

逗子市教育委員会

調査の結果を受けて、今後の指導改善に向けて逗子市として取り組むこと

基礎的・基本的な知識・技能の習得とともに、それらを活用して、自分の考えを数学的に説明したり、表現したりする学習をより一層充実させる必要がある。日常的な事象を数学的な解釈に基づいて考察し、事柄が成り立つ理由を説明できるよう、問題解決の方法に焦点を当てて、判断の根拠を的確に表現できるようにする。領域ごとの改善点については、以下に列挙する。

## 【数と式】

- \* 方程式の解の意味についての理解を深められるようにするために、様々な数を方程式の変数（未知数）に代入し、代入した値がその方程式を満たす値となるかどうかについて検討し、方程式の解について確認する活動を重視することが大切である。
- \* 文字を用いて処理した式に基づいて、問題を解決する方法を説明することができるようにするために、問題を解決するための対象を捉え、その上で、文字を用いた式を読み取り、解釈について検討し、それを数学的に説明する活動を充実させることが大切である。

## 【図形】

- \* 証明の必要性と意味についての理解を深められるようにするために、証明された命題がその仮定を満たすすべての図形に例外なく成り立つことを確認する活動を重視することが大切である。その際、仮定を満たすいくつかの具体的な図形について取り上げ、改めて証明する必要があるのかどうかを検討する場面を設定するなどして、同じ証明が成り立つことを確認する活動を充実させることが大切である。
- \* 命題における結論を導くために何がわかればよいかを明らかにし、与えられた条件を整理することとおしてその命題が成り立つことを筋道を立てて証明したり、それを検討したりする活動を充実させることが大切である。また、新たに条件を加えた際に、見いだした事柄の前提に当たる条件と、それによって証明される結論について検討し、それらを数学的に表現する活動を充実させることが大切である。

## 【関数】

- \* 2つの数量の関係から関数関係を見いだすことができるようにするために、具体的な事象における2つの数量の変化や対応の特徴を、表・式・グラフを用いて捉え、それらを相互に関連付けて考察することとおして、どのような関数になりそうか検討し、関数を判断する活動を重視することが大切である。
- \* 数学的な結果を事象に即して解釈することができるようにするために、問題解決のために用いたグラフを事象に即して捉え直したり、振り返ったりする活動を充実させるとともに、様々な問題を数学を活用して解決できるようにするために、問題解決の方法に焦点をあて、「用いるもの」と「用い方」を明確にして問題解決の方法を説明する活動を充実させることが大切である。

## 【資料の活用】

- \* 資料の傾向を適切に判断するために、目的に応じてデータを収集し整理した表などから代表値を求める活動を重視することが大切である。
- \* 日常生活や社会における問題に対して、資料を用いて傾向を的確に捉え、問題を解決できるようにするために、収集したデータを整理したグラフの形から、分布の特徴を視覚的に捉えたり、代表値を求めて比較したりするなど、数学的な表現を用いて判断の理由を説明する活動を充実させることが大切である。

# 平成 28 年度全国学力・学習状況調査の結果の分析（児童・生徒質問紙）

特徴的なことや課題と考えられること等

## <小学校>

○算数への関心等についての質問では、おおむね高い割合で関心があることがうかがえる。

○学習習慣に関する質問では、国の結果に比べるとできている児童の割合が低い。ほとんどの児童が宿題を家でやっているが、予習、復習に関しては、取り組んでいる児童は半数以下と低い割合になっている。

●規範意識に関する質問について、高い割合で決まりを守っていたり、いじめはいけないと考えたりしているが、国や県の数値に比べると若干低い値となっている。

●総合的な学習の時間への関心等についての質問では、国や県よりも好きであると答えた児童の割合が低く、自分で課題を立てて情報を集めたり、調べたことを発表したりするなどの学習活動への取組も若干低い。

## <中学校>

○自尊感情が高く、将来の夢や目標を持っている生徒が7割程度いる。

○総合的な学習への関心等が高く、言語活動・読解力について、特に資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していた生徒の割合が多い。

○学力向上に向けた取り組み・指導方法について、学習の目標(めあて・ねらい)が授業で示されていたり、ノートに目標(めあて・ねらい)やまとめを書いていたと思う生徒の割合が神奈川県に比べて高く、全国の結果と同等の割合である。

●学習習慣について、家で宿題や予習復習を行うなどの基本的な習慣が身についている生徒の割合が低い。

●国語・数学への関心等について、苦手意識があり、難しいと感じている生徒の割合が高い。特に国語では読書が好きな生徒の割合が低く、課題であると言える。

調査の結果を受けて今後の指導改善に向けて

## <小学校>

○算数への関心が高いという結果から、本市が算数の授業において、少人数指導など個に応じた指導に積極的に取り組んでいる事が成果として表れていると考えられる。今後も継続して個に応じた指導に力を入れていく必要がある。

○家庭学習の習慣が身につけていない児童について、宿題はやれているが、予習復習が定着していない事から、学習の方法や自主的に学習する動機づけについて今後力を入れていく必要がある。家庭との連携や指導方法の工夫・改善に関する教員研修を市教委として充実させていく。

○規範意識を育てていくために、道徳の時間について、教員研修を充実させていく。

○自分で課題を立てて情報を集めたり、調べたことを発表するなどの学習活動への取組については、アクティブラーニングの視点から、指導方法の改善をはかれるよう、働きかける。

## <中学校>

○家庭学習の習慣が身につけていない生徒について、学校での学習が主となっていることから、これまで以上に配慮が必要である。具体的には、次のようなことがあげられる。

・わかる授業、達成感のある授業を目指し、指導方法の工夫・改善に教職員が努めることができるよう、授業力向上研修などの教員研修や、教育指導員による指導を充実させる。

・校務支援システムの活用を推進し、教材研究をしたり、生徒に個別に関わる時間を増やせるようにする。

めあて・ねらいを授業で示すことが授業のスタンダードとして定着してきており、授業のユニバーサル化の視点や支援教育の考え方が浸透しつつあることがうかがえる。授業のチェックリストなどの活用を推進し、多くの教職員が、支援教育の視点から授業や学級づくりの改善に取り組めるようにする。



# 平成 28 年度「逗子市学習状況調査」の分析結果(小学校)

## ○はじめに

平成 28 年 4 月 19 日に「逗子市学習状況調査」が行われました。この調査は、逗子市の児童の学習状況を把握・分析し、各学校の指導方法の工夫・改善および児童の学習に役立て、市として必要な施策の策定に資するために行われたものです。実施内容は、市内小学校 5 年生を対象とし、国語、社会、算数、理科の 4 教科で、神奈川県 of 調査問題をもとに行われました。この分析結果を踏まえ、各学校において今後の指導方法の工夫と改善を図り、本市において教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るよう努めたいと思います。

なお、ここでいう学力とはこの調査で測ることができた学力の一部であり、子どもたちの持つ学力全てを示すものではありません。

## ○実施状況

- |                 |                        |
|-----------------|------------------------|
| (1) 調査実施日       | 平成 28 年 4 月 19 日 (火)   |
| (2) 実施教科        | 教科に関する調査 (国語、社会、算数、理科) |
| (3) 実施学校・学年・調査数 | 逗子市立小学校 5 年生 405 名     |

## ○逗子市調査結果の概要 (小学校 5 年生)

各教科の調査結果について以下に示す。正答率では、社会が最もよく 76.7%と高い数値を示している。国語、算数では、それぞれ 72.1%、72.0%となっており、理科については 68.0%と最も低い数値となっている。

表 各教科の調査結果 (正答率)

教科	調査児童数	平均正答率
国語	403 名	72.1%
社会	404 名	76.7%
算数	405 名	72.0%
理科	405 名	68.0%

## 国語

- ・国語は、調査児童数 403 人にて実施をした。その結果、平均正答数 16.6 問、平均正答率が 72.1%、平均正答率が 60%以上の児童は全体の 7 割以上を占めている。
- ・観点別の平均正答率については、「書く能力」（1 設問）が 71.7%、「読む能力」（6 設問）が 70.8%、「言語についての知識・理解・技能」（16 設問）が 72.6%と概ね良好な結果となっている。
- ・「読む能力」の各設問について平均正答率を見ると、『事実と意見の区別』が 75.4%と高い正答率となっている（問二（1））。一方、『中心となる語や文をとらえて要点を捉える』については 35.7%となっており、文相互の関係を整理して読む能力を苦手とする児童が多いことがわかる（問二（2））。
- ・「言語についての知識・理解・技能」については、『漢字の読み』が 82.1%以上とそれぞれ高い正答率となっている（問一（1））。一方、『ローマ字の書き』では正答率が 17.9%となっており（問一（6）（イ））、ローマ字を書くことを苦手としている児童が多いことがわかる。

### 調査結果を踏まえた指導の工夫・改善

書く能力について	○授業の場面では、書こうとすることの中心を明確にするために、目的や必要に応じて、理由を挙げたり、わかりやすく説明するために事例を挙げたりすることができるように指導することが大切です。理由については、「なぜかという～」、「その理由は～」、「～のためです。」などの表現を、事例については、「例えば～」、「例をあげると～」、「～などが当たります。」などの表現を指導することが大切です。（問三）
読む能力について	○授業の場面では、読む目的によって本や文章の活用の仕方が変わり、そのため取り上げる中心となる語や文も変化します。指導事項の趣旨を踏まえ、児童自らが目的意識を持って主体的に取り組める言語活動を工夫し、言語活動をとおして指導事項を指導することが大切です。（問二（2））
言語についての知識・理解・技能について	○地名や人名などの固有名詞を含めた簡単な単語について、日常からローマ字で表記されたものを読み、また、書く習慣を身に付けるようにすることが大切です。（問一（6））

## 社会

- ・社会は、調査児童数 404 人にて実施をした。その結果、平均正答数 26.1 問、平均正答率が 76.7%、平均正答率が 60%以上の児童は全体の 8 割以上を占めている。
- ・観点別の平均正答率については、「社会的な思考・判断・表現」(7 設問)が 80.8%、「観察・資料活用の技能」(11 設問)が 67.1%、「社会的事象についての知識・理解」(16 設問)が 81.4%と概ね良好な結果となっている。
- ・「社会的な思考・判断・表現」の各設問について平均正答率を見ると、『地域の人々の生産や販売』に関する問題が 93.8%と多くの児童に理解されている(問 2 (1) (ア))。一方、『飲料水、電気、ガスの確保や廃棄物の処理』に関する問題の一部では 33.2%となっており、学習してきたことを総合的に振り返り、適切に判断することを苦手とする児童が多いことがわかる(問 3 (2))。
- ・「観察・資料活用の技能」については、『災害及び事故の防止』が 95.8%と高い正答率になっている(問 5 (1) (ウ))。一方、『県(都、道、府)の特色』については 42.6%と低く、自分たちの住んでいる県の地形や産業などの特色を理解することを苦手とする児童がいることがわかる。(問 6 (1) (ウ))。
- ・「社会的事象についての知識・理解」については、『飲料水、電気、ガスの確保や廃棄物の処理』に関する問題 93.6%と高い正答率になっている(問 3 (1) (ア))。一方、『県(都、道、府)の特色』に関する問題の一部では 65.8%と低く、地図上での都道府県の位置を把握することを苦手とする児童が多いことがわかる。(問 8 (エ))。

### 調査結果を踏まえた指導の工夫・改善

社会的な思考・判断・表現について	○飲料水を供給する仕事に携わる人々から消費地に供給されるまでの対策や事業について話を聞いたり、浄水場などの施設を見学したりして具体的に調べる活動をしましょう。(問 3 (2))
観察・資料活用の技能について	○県の特色を考える手掛かりとして、県全体の地形や主な産業の概要、交通網の様子などについて指導する際には、県内を通る主な道路や鉄道などの交通網、主な港や空港の位置、主な都市の位置などを取り上げて調べ、白地図に書き表して指導すると有効です。(問 6 (1))
社会的事象についての知識・理解について	○社会科の学習以外の場面でも、日常的に地図帳で各都道府県の名称と位置を確認する習慣を身に付けさせることが有効です。都道府県を表す地図を教室に常に掲示し、その活用を図るなど、教室環境を工夫した継続的な指導に努めましょう。(問 8)

# 算数

- ・算数は、調査児童数 405 人にて実施をした。その結果、平均正答数 23.8 問、平均正答率が 72.0%、平均正答率が 60%以上の児童は全体の 7 割以上を占めている。
- ・観点別の平均正答率については、「数学的な考え方」(9 設問) が 61.2%、「数量や図形などについての技能」(18 設問) が 75.6%、「数量や図形などについての知識・理解」(6 設問) が 77.4%と概ね良好な結果となっている。
- ・「数学的な考え方」の各設問について平均正答率を見ると、『四則に関する性質』に関する問題が 93.1%と多くの児童に理解されている(問二(1))。一方、『数量の関係を表す式』に関する問題では 46.4%となっており、数量を□、△などを用いてその関係を式にすることを苦手とする児童が多いことがわかる(問三(2))。
- ・「数量や図形などについての技能」については、『伴って変わる二つの数量の関係』が 96.3%と高い正答率になっている(問四(1)(ア))。一方、『面積の単位』については 21.5%と低く、単位と測定の意味を理解することを苦手とする児童が多いことがわかる。(問七(1))。
- ・「数量や図形などについての知識・理解」については、『資料の分類整理』に関する問題が 84.4%と高い正答率になっている(問四(2)(ア)(あ))。一方、『四角形の対角線』に関する問題では 66.7%となっており、四角形の対角線の意味について理解することを苦手とする児童が多いことがわかる。(問六(2)(イ))。

## 調査結果を踏まえた指導の工夫・改善

数学的な考え方について	○個数と代金の関係を表にするなど、視覚的にわかるように配慮し、二つの数の関係を見つける活動を大切にしましょう。その上で、その関係を□や△を使った式に表すなど、児童の思考に沿って理解が深まるようにしましょう。さらに式の意味を考え、順番を意識した立式ができるように確認しましょう。(問三(2))
数量や図形などについての技能について	○身の回りにあるものの面積を実際に測定する活動を取り入れ、面積を求めたり、様々な場面で単位を用いたりすることを通して、単位の大きさや面積の求め方について、実感を伴ってより確実に理解が深められるようにしましょう。(問七(1))
数量や図形などについての知識・理解について	○実際に四角形やその対角線をかき活動を通して、辺の長さや対角線の性質を調べたり、平行四辺形、ひし形、台形で平面を敷き詰めたときに同じ大きさの角や平行線の性質に気づいたりするなど、実感的な理解を深める指導をしましょう。(問六(2))



# 理科

- ・理科は、調査児童数 405 人にて実施をした。その結果、平均正答数 19.0 問、平均正答率が 68.0%、平均正答率が 60%以上の児童は全体の 7 割以上を占めている。
- ・観点別の平均正答率については、「科学的な思考・表現」（8 設問）が 69.8%、「観察・実験の技能」（2 設問）が 57.3%、「自然事象についての知識・理解」（18 設問）が 68.4%と概ね良好な結果となっている。
- ・「科学的な思考・表現」の各設問について平均正答率を見ると、『光電池の働き』に関する問題が 93.3%と多くの児童に理解されている（問四（2））。一方、『人の体のつくりと運動』に関する問題では 44.4%となっており、人が体を動かすことができるのは、骨、筋肉の動きであることへの理解が不足している児童が多いことがわかる（問二（1））。
- ・「観察・実験の技能」については、全体的に正答率は 5～6 割程度であり、『虫眼鏡の使い方』が 50.6%となっている（問一（4））。
- ・「自然事象についての知識・理解」については、『水の蒸発』に関する問題が 92.3%と高い正答率になっている（問五（3））。一方、『沸騰・水蒸気』に関する問題では 23.2%と低くなっており、水が温められると水蒸気になり、冷やされると氷になる様子を絵や図で理解することを苦手とする児童が多いことがわかる。（問八（3））。

## 調査結果を踏まえた指導の工夫・改善

科学的な思考・表現について	○他の動物の体のつくりや動き、運動を観察したり、実際に触れながら比較したり、映像や模型を活用したりしながら、人の体のつくりと運動とのかかわりについて捉えることができるようにしましょう。（問二（1））
観察・実験の技能について	○虫眼鏡等の観察道具の使い方については、忘れている児童もいると思われるので、その都度使い方について説明することが大切です。（問一（4））
自然事象についての知識・理解について	○やかんの注ぎ口付近の見えない部分にガラス棒などを当て、水滴がつくことを確認したり、沸騰した水の中から出てくる泡を集め、冷やすことで、この泡は空気ではなく水が変化したものであることを気付くことができるような活動が考えられます。（問八（3））

# 平成 28 年度「逗子市学習状況調査」の分析結果(中学校)

## 〇はじめに

平成 28 年 4 月 19 日に「逗子市学習状況調査」が行われました。この調査は、逗子市の生徒の学習状況を把握・分析し、各学校の指導方法の工夫・改善および生徒の学習に役立て、市として必要な施策の策定に資するために行われたものです。実施内容は、市内中学校 2 年生を対象とし、国語、社会、数学、理科、英語の 5 教科で、神奈川県調査問題をもとに行われました。この分析結果を踏まえ、各学校において今後の指導方法の工夫と改善を図り、本市において教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るよう努めたいと思います。

なお、ここでいう学力とはこの調査で測ることができた学力の一部であり、子どもたちの持つ学力全てを示すものではありません。

## 〇実施状況

- |                 |                           |
|-----------------|---------------------------|
| (1) 調査実施日       | 平成 28 年 4 月 19 日 (火)      |
| (2) 実施教科        | 教科に関する調査 (国語、社会、数学、理科、英語) |
| (3) 実施学校・学年・調査数 | 逗子市立中学校 2 年生 359 名        |

## 〇逗子市調査結果の概要 (小学 5 年生)

各教科の調査結果について以下に示す。正答率では、国語が最もよく 68.8%と高い数値を示している。英語、数学、社会では、それぞれ 66.7%、53.5%、50.3%となっており、理科については 47.8%と最も低い数値となっている。

表 各教科の調査結果 (正答率)

教科	調査生徒数	平均正答率
国語	359 名	68.8%
社会	358 名	50.3%
数学	357 名	53.5%
理科	357 名	47.8%
英語	357 名	66.7%

## 国語

- ・国語は、調査生徒数 359 人にて実施をした。その結果、平均正答数 15.8 問、平均正答率が 68.8%、平均正答率が 60%以上の生徒は全体の約 7 割を占めている。
- ・観点別の平均正答率については、「書く能力」（設問 1 問）が 59.5%、「読む能力」（設問 12 問）が 61.4%、「言語についての知識・理解・技能」（設問 10 問）が 78.6%と概ね良好な結果となっている。
- ・「書く能力」の設問について平均正答率を見ると『条件作文』に関する問題が 59.5%となっており、苦手とする生徒がまだある程度いることから、もっと多くの生徒に理解を高めてもらう必要がある（問四）。
- ・「読む能力」については、『文脈における語句の意味の理解』は 89.7%と高い正答率になっている（問二（1））。一方『登場人物の心情把握』については 46.8%となっており、場面の展開や登場人物などの描写や会話を注意して読み、その場面における心情を理解することを苦手としている生徒が多いことがわかる。（問二（3））。
- ・「言語についての知識・理解・技能」については、『漢字の読み』が 88.6%以上とそれぞれ高い正答率となっている（問一（1））。一方『主語と述語、修飾語と被修飾語』は 54.0%と低く、文節どうしの関係として、修飾・被修飾、主・述の関係を理解しているかどうかをみることを苦手としている生徒が多いことがわかる。（問一（4））。

### 調査結果を踏まえた指導の工夫・改善

書く能力について	○授業では、一人ひとりの生徒が自分の考えを具体的にもつことができるように指導することが大切です。そのためには、魅力ある教材（題材）の設定、個に応じた指導、考える時間の確保などに留意することが求められます。また、文章の中の自分の考えや気持ちについての根拠が明確に書かれているかどうかを常に吟味するように指導しましょう。（問四）
読む能力について	○普段の授業から、場面の展開に注意しながら、登場人物の性格や心情の移り変わり、行動描写、情景描写の意図などについて、叙述に即して考えられるよう、指導の工夫・改善を継続することが大切です。（問二（3））
言語についての知識・理解・技能について	○文の成分は、中学校 1 年生で学習しますが、「主語と述語」については小学校低学年から、「修飾と被修飾」については中学年から扱っている事項です。小・中の連携の面からも、小学校での具体的な指導、取組について把握した上での継続した指導が望まれます。文の基本となる骨組みを確実に読み取る力、また日常生活における話の中心を聞く力の育成のために、文法の時間だけではなく、国語の授業における文章や、日常の発言の機会をとらえて主語と述語を中心とした言葉の成分を意識させる工夫が必要です。（問一（4））

## 社会

- ・社会は、調査生徒数 358 人にて実施をした。その結果、平均正答数 14.6 問、平均正答率が 50.3%、平均正答率が 60%以上の生徒は全体の 3 割程度にとどまった。
- ・観点別の平均正答率については、「社会的な思考・判断・表現」(4 設問)が 53.6%、「観察・資料活用  
の技能」(5 設問)が 46.6%、「社会的事象についての知識・理解」(20 設問)が 50.5%と一部の結果を  
除き概ね良好な結果となっている。
- ・「社会的な思考・判断・表現」の各設問について平均正答率を見ると、『世界の様々な地域』に関する  
問題が 81.0%と多くの生徒に理解されている(問二(3))。  
一方『中世の日本』に関する問題の一部では 17.9%となっており、建武の新政が 2 年半で崩れた理由  
について知識をもち活用することを苦手とする生徒が多いことがわかる(問六(3))。
- ・「観察・資料活用の技能」については、『古代までの日本』が 74.9%と高い正答率となっている(問四  
(5))。一方、『世界の地域構成』の一部の設問については、12.0%と低くなっており、地図の特色を  
理解して、位置に関する基本的な知識を身につけることを苦手とする生徒が多いことがわかる(問一  
(4))。
- ・「社会的事象についての知識・理解」については、『世界の地域構成』が 78.8%と高くなっている(問  
一(3))。一方『中世の日本』に関する問題の一部では 27.1%となっており、中世において、団結を  
強めた農民が荘園領主や守護大名にも抵抗するようになり、町幕府を動揺させたことを理解できてい  
ない生徒が多いことがわかる(問六(4))。

### 調査結果を踏まえた指導の工夫・改善

社会的な思考・判 断・表現について	○後醍醐天皇と御家人との関係を、鎌倉時代の将軍と御家人の関係を比較しながら、 考察させることが有効です。(問六(3))
観察・資料活用の 技能について	○目的に応じた様々な地図があることを取り上げ、実際の形状に近い地球儀と、方位、 距離、陸地の形状を比較する学習葛生を取り入れることが有効です。(問一(4))
社会的事象に についての知識・ 理解について	○当時の人々の生活の様子を理解するうえで、資料を活用して調べたり、考察するこ とは、歴史の学習が深まり有効です。(問六(4))

# 数学

- ・数学は、調査生徒数 357 人にて実施をした。その結果、平均正答数 16.0 問、平均正答率が 53.5%、平均正答率が 60%以上の生徒は全体の 5 割弱を占めている。
- ・観点別の平均正答率については、「数学的な考え方」(6 設問)が 42.5%、「数量や図形などについての技能」(14 設問)が 54.0%、「数量や図形などについての知識・理解」(10 設問)が 59.3%と一部を除き概ね良好な結果となっている。
- ・「数学的な考え方」の各設問について平均正答率を見ると、『関数関係』に関する問題が 65.0%と比較的多くの生徒に理解されている(問四(3))。一方、『一次方程式の利用』についての回答は 3 割台と低く、具体的な事象について、方程式をつくり、答えを求めることが苦手な生徒が多いことがわかる(問三(5))。
- ・「数量や図形などについての技能」については、『減法』に関する問題が 85.4%、『加法と減法』に関する問題が 84.6%と多くの生徒に理解されている(問一(1)(2))。一方、『三角錐の体積』に関する問題では 12.5%となっており、立体の体積の算出を苦手とする生徒が多いことがわかる(問六(3))。
- ・「数量や図形などについての知識・理解」については、『回転体』に関する問題が 90.2%と多くの生徒に理解されている(問六(2))。一方、『回転移動』に関する問題では 30.3%となっており、図形の回転移動が回転の中心の位置及び回転角の大きさで決まることを理解できていない生徒が多いことがわかる(問五(2))。

## 調査結果を踏まえた指導の工夫・改善

<p>数学的な考えについて</p>	<p>○文字式を用いて数量の関係を表したり読み取ったりすることの学習と結びつきませす。また、方程式を解いたあとに、その解が、その問題にあっているか調べる必要があります。このことは方程式を作るときに表現しきれなかった条件を、題意と照らし合わせて確認することを意味しています。このように目的に応じて結果を検討し、処理する態度を育てることが重要です。(問三(5))</p>
<p>数量や図形などについての技能について</p>	<p>○三角錐の4つの面のうちどの面を底面ととらえるか、そのときの高さはどこにあたるのか、与えられている長さの内どれを使えば体積が求められるか考えることが必要です。実際に立体を作ったり、観察したり、それを用いて説明したりする活動を充実させましょう。立体を平面上に表す方法として、見取図、展開図、投影図などがありますが、生徒が見取図の特徴をふまえ、正しく情報を読み取ることができるようにしましょう。立体をイメージさせる手立てとして、ICTを積極的に活用しましょう。(問六(3))</p>
<p>数量や図形などについての知識・理解について</p>	<p>○授業では、始めはマス目入りの用紙を使い、徐々にマス目なしの用紙で、定規やコンパスを使っての作図に慣れさせましょう。また、合同な図形の敷き詰め模様を観察することによってその中に二つの図形がどのように移動によって重なるか調べたり、一つの図形を基にしてそれを移動することによって、敷き詰め模様をつくる活動を取り入れる工夫をしましょう。(問五(2))</p>

# 理科

- ・理科は、調査生徒数 357 人にて実施をした。その結果、平均正答数 18.6 問、平均正答率が 47.8%、平均正答率が 60%以上の生徒は全体の 3 割程度にとどまった。
- ・観点別の平均正答率については、「科学的な思想・表現」(9 設問)が 46.0%、「観察・実験の技能」(10 設問)が 44.4%、「自然事象についての知識・理解」(20 設問)が 57.0%と一部を除き、概ね良好な結構となっている。
- ・「科学的な思想・表現」の各設問について平均正答率を見ると、『光の屈折 (凸レンズ)』に関する問題が 74.8%と多くの生徒に理解されている (問七 (2))。一方『水溶液 (溶解度を読み取る)』についての回答は 24.4%と低く、質量%濃度を正しく求めること、温度と溶解度について正しい理解が不足している生徒が多いことがわかる (問六 (2))。
- ・「観察・実験の技能」については、『生物の観察 (顕微鏡の操作手順)』に関する問題が 88.0%と多くの生徒に理解されている (問一 (2))。一方、『状態変化 (蒸留)』に関する問題では 18.2%となっており、物質の融点や沸点から物質を区別することや、ガスバーナーの使い方に対する理解が不足している生徒が多いことがわかる (問五 (2))。
- ・「自然事象についての知識・理解」については、『光の屈折 (凸レンズ)』に関する問題が 88.0%と多くの生徒に理解されている (問七 (1))。一方『植物の仲間 (コケ植物、シダ植物)』に関する問題では 23.0%と低く、種子植物や種子をつくらない植物の体のつくりにはそれぞれさまざまな特徴があり、それに基づいて分類できることへの理解が不足している生徒が多いことがわかる (問二 (5))。

## 調査結果を踏まえた指導の工夫・改善

科学的な思考・表現について	○実験を行い、水溶液の様子をよく観察し、温度による溶解度の違いを実感することで、より理解が深まります。(問六 (2))
観察・実験の技能について	○生徒が実験方法を計画し、見通しを持って実験に取り込むことが効果的です。(問五 (2))
自然事象についての知識・理解について	○どんな植物があるのか、実際に外で観察したり、写真やインターネットで確認したりするとよいでしょう。(問二 (5))

## 英語

- ・英語は、調査生徒数 357 人にて実施をした。その結果、平均正答数 23.4 問、平均正答率が 66.7%、平均正答率が 60%以上の生徒は全体の 7 割弱を占めている。
- ・観点別の平均正答率については、「外国語の表現の能力」(15 設問) が 61.5%、「外国語理解の能力」(18 設問) が 59.5%、「言語や文化についての知識・理解」(22 設問) が 69.8%と概ね良好な結果となっている。
- ・「外国語表現の能力」の各設問について平均正答率を見ると、『文の大切な部分の正確な読みとり』に関する問題がともに 88.5%と多くの生徒に理解されている(問四(1)(2))。一方、『文と文のつながりなどに注意した文の記述』に関する問題の一部では 30.0%となっており、単語の綴りや語順が正しく、文のきまりに誤りのない英文の記述を苦手とする生徒が多いことがわかる(問八(2)(ウ))。
- ・「外国語理解の能力」については、「外国語表現の能力」と同様な結果である。
- ・「言語や文化についての知識・理解」については、『be 動詞の平叙文』に関する設問で 96.9%と高い正答率になっている(問一(1))。一方、『運用度の高い語』に関する設問では 35.9%と短い英文とそれに関連する絵や図を見て内容を把握し、適切な言葉を書くことを苦手とする生徒が多いことがわかる(問六(4))。

### 調査結果を踏まえた指導の工夫・改善

外国語の表現の能力について	○授業においては、英文を正しく書く練習をするとともに、文と文のつながりを意識した、まとまりのある「文章」を書く活動も必要です。その際、指導者は具体的でわかりやすい場面や状況を設定したり、場面や状況に合わせた表現を例示したりするなど、指導方法を工夫して授業を進めてください。(問八(2)(ウ) 英文)
外国語理解の能力について	
言語や文化についての知識・理解について	○指導する語は、具体的な場面や状況で適切に用いるようにして定着を図ることが大切です。また、「コミュニケーション能力の基礎を養う」とする観点から、授業の中でよく用いられる語については、言語活動の中で繰り返し触れながら定着させることが効果的です。(問六(4))